

一言、ご挨拶を申し上げます。

このたび大型水産練習船「神海丸」が竣工の運びとなりました。私どもにとりまして誠に喜ばしいことでもあります。

建造にあたりご尽力いただきました文部科学省、株式会社ヤマニシ様をはじめ、関係の皆様には厚くお礼申し上げます。

ヤマニシ様の造船所は宮城県石巻市にあり、2年前の東日本大震災の際、津波の被害を受けられました。竣工間近であった建造中の船が流され、廃船せざるを得なくなるなど、甚大な被害であったとお聞きをしております。

そのとき、「神海丸」はまだ建造に着手されていませんでしたが、ヤマニシ様からは、震災復興のシンボルとして「神海丸」の建造を成し遂げたいという強い熱意が示されました。

そして本日、ヤマニシ様で震災後初めて建造された船舶として、「神海丸」が竣工したのであります。

後ほどご覧いただきますが、船体の側面には、岩手・宮城・福島の三県の旗と島根県の旗の色の帯が描かれています。これは、震災からの復興と、東北3県と島根との絆を表したものであります。

さて、日本の漁業を取り巻く状況を見ますと、大変厳しいものがありますが、県では、水産資源の回復や漁場環境の改善など、様々な水産振興策に取り組んでいます。特に、水産教育の面においては、産・学・官連携の強化や施設設備の充実に努め、若い担い手の育成に力を注いでいます。

この「神海丸」は、沿岸から遠洋まで様々な実習に対応できるように設計されています。また、環境に配慮したエンジンを搭載しております。生徒の皆さんが快適に過ごせるよう工夫もされています。

航海技術・エンジン関係の機関・漁業に関する最先端の技術を結集した、言わば「動く教室」と呼ぶにふさわしい練習船となっております。

生徒の皆さんが、本船での実習により技術と知識を習得され、島根の水産や海運を担う人材として成長されることを期待しております。

また、昨年度末までの3年間にわたり、鳥取県から水産練習船「若鳥丸」をお借りしました。お蔭をもちまして、生徒の皆さんが無事、実習を行うことができました。この場をお借りしまして、鳥取県の関係の皆様には厚くお礼を申し上げます。

終わりに、「神海丸」の航海の安全と、ご臨席の皆様のご健勝とご発展を祈念しまして、ご挨拶といたします。